

「新憲法研究会」について

① 設立の趣旨

改憲論議が漂流する中、「参議院の存在意義」等統治機構の根本問題について党派を超えて考える研究会です。昨年2月17日の参議院憲法審査会では、「二院制のうち、参議院と衆議院の関係（参議院として重視すべき役割）」をテーマに参考人質疑が行われましたが、この方向での調査研究を進める考えです。

国民主権に基づく二院制と議院内閣制という仕組みの中で、第二院の参議院は第一院の衆議院を具体的にどのようなやり方でバックアップすれば良いか。このような統治の仕組みそのものを根本的に見直すべきか。「国民主権の徹底」が基本の視点であり、政治行政の現状を直視し、憲法思想の原点から改憲も視野に入れた未来志向的な議論を目指します。

② 発起人

風間直樹（参議院議員・民進党）

ポール室山（米国政治アナリスト・ロビイスト）

竹田青嗣（早稲田大学教授（哲学）・元参議院行政監視委員会客員調査員）

田中祥貴（桃山学院大学教授（憲法学）・元参議院憲法審査会客員調査員）

荒井達夫（千葉経済大学特任教授（行政学）・元参議院憲法審査会首席調査員）

③ 主な活動

勉強会・講演会の開催、インターネットによる情報発信等

④ 主な論点

憲法の哲学的土台－自由の相互承認と一般意志

大統領制と象徴天皇制の両立

「国権の最高機関」－いわゆる「政治的美称説」の再検討

参議院の役割－行政監視機能と憲法保障機能の検討

参議院の憲法保障機能と議会拒否権制度の研究

行政監視機能と予算・決算の審議の在り方の見直し

国民主権に基づく新たな行政監視システムの構築

国会同意人事の仕組みの見直し

国会長期経済推計機関の設置